

沖縄FTZと中継貿易の展望

高良 守

▷5◁

前回指摘したように、南西地域産業活性化センターによるヒアリング結果からも、沖縄FTZのインフラ整備が強く望まれている。つまり、外航貿易ができる最小限のインフラ(物流・流通システム)を構築することにある。具体的には、「港」のほかに敷地面積(規模)を拡大し、そこに物流に必要な諸整備を施す。

また、国際貿易における商的介入を担当する能力(ヒト、ノウハウ、信用、経験、資金)を持った各種の機関と大量の貨物についての海上輸送や沿岸輸送、港内輸送、陸上輸送、港湾作業等の連携を円滑・迅速に処理することができると高度な商的機能の集積が必要である。

具体的には、貿易商社や銀行、保険やその他の金融機関、海運会社、陸運業、港湾運送業、港湾関連事業などである。通関の規制緩和を

け余計にコスト高になつてしまう。つまり、保税輸送(陸送)の形をとったにしてもフリーゾーン内に物流の玄関となる空・海・陸が接続されていなければ余計にコストがかかってしまう。さらに、大型船を停泊できるだけの貨物を那覇港から同地区へ搬入する際は、通過料や地区税関の「保税運送」の許可が必要であり運送手数料(横待ち手数料)が支払われているので、それらの軽減策も必要としている。また、現行の関税法では無税の輸入貨物も保税地域への搬入を性やその他について以下のように述べている。「台湾側が沖縄を中継したいとの希望もあり、中継貿易に必要な港湾関係施設及び諸機能について、沖縄側の整備が十分と思われるのでその整備方を関係機関に要請する。」

商的機能の集積も必要

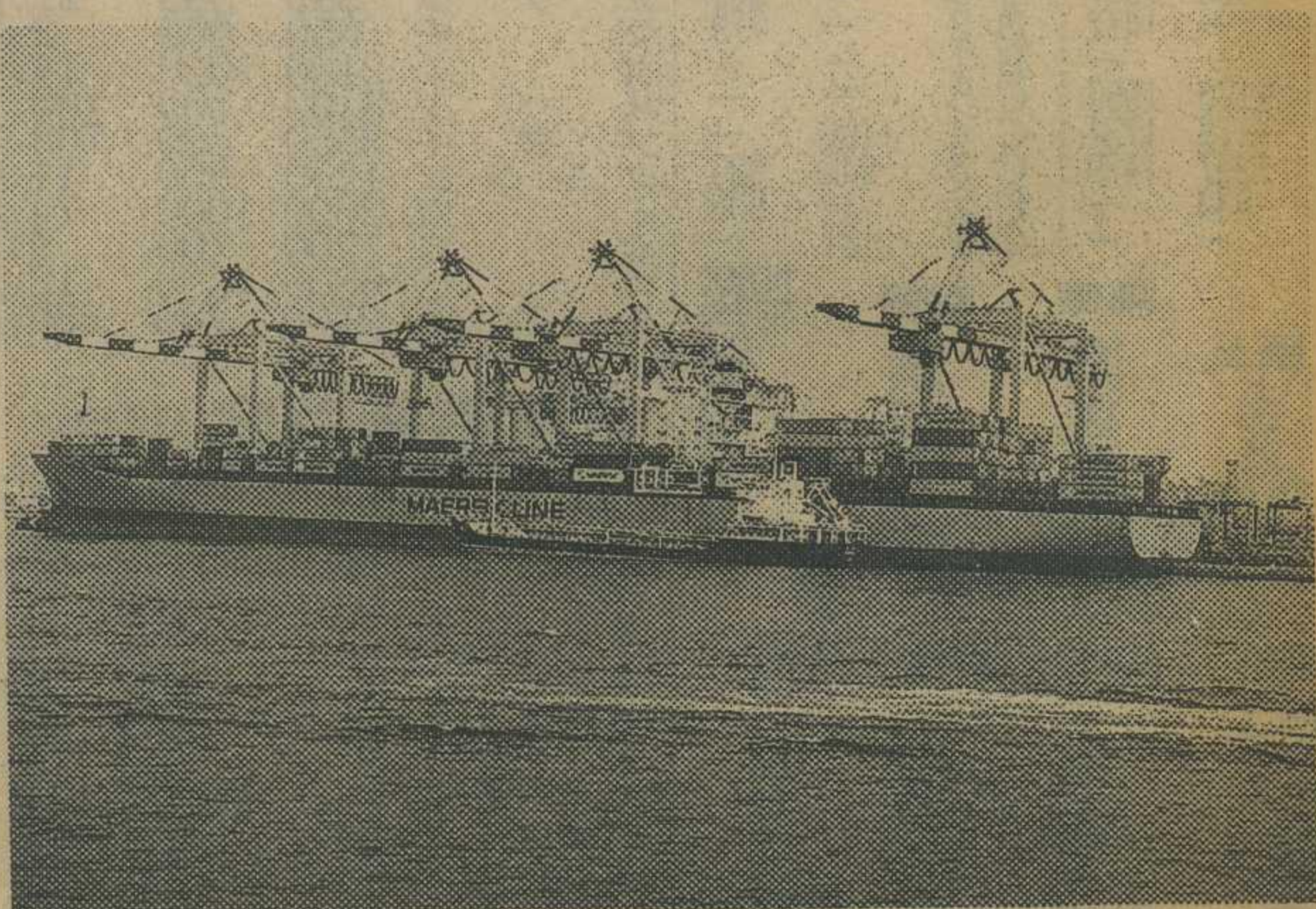
望まれる空・海・陸の接続

また、本県の場合には、物流・流通システム(空路・海路・陸路も含む)の問題として次のようなものが挙げられる。外国

また、本県の場合には、物流・流通システム(空路・海路・陸路も含む)の問題として次のようなものが挙げられる。外国

また、本県の場合には、物流・流通システム(空路・海路・陸路も含む)の問題として次のようなものが挙げられる。外国

また、本県の場合には、物流・流通システム(空路・海路・陸路も含む)の問題として次のようなものが挙げられる。外国



大量の物流に不可欠なガントリークレーンを備えた台湾・高雄港

また、本県の場合には、物流・流通システム(空路・海路・陸路も含む)の問題として次のようなものが挙げられる。外国

また、本県の場合には、物流・流通システム(空路・海路・陸路も含む)の問題として次のようなものが挙げられる。外国

また、本県の場合には、物流・流通システム(空路・海路・陸路も含む)の問題として次のようなものが挙げられる。外国

また、本県の場合には、物流・流通システム(空路・海路・陸路も含む)の問題として次のようなものが挙げられる。外国

(琉大大学院生)